

川上地域のよさを知る農業体験

～勤労体験・交流体験～

教科・領域 総合的な学習の時間, 生活科

萩市立川上小学校全学年

キャリア教育の観点

この取組は、地域のよさを知る農業体験にするために、地域の方々との学校田での米づくりや学校畑での野菜づくりを通して、地域の方々に感謝する心や地域を愛する心を培っていく活動です。

【人間関係形成・社会形成能力】

食育授業

5月初旬、全校児童を対象に、JAの方々による『食育出前授業』を行う。

今年度は、田植えだけでなく、バケツ稲にも挑戦することになった。そこで、米づくりについてさらに関心を高めるために、JAの方々が萩・阿武地区の作付面積や品種、成長の過程、お世話の仕方などクイズを交えながらお話をいただいた。

低学年には少し難しいお話だったようだが、川上地区も地域の方々が協力して米づくりに取り組んでいることが理解できたようである。

＜食育授業から田植えまでの流れ＞

5月初旬

もみまき（5・6年）



育苗センター



苗の管理（5・6年）



5月下旬



田植え体験

5月下旬、全校児童で田植えを行った。

JAの方、PTA、学校支援ボランティアの方々の協力を得て、1列に並んで3、4本の苗を丁寧に植えていった。

初めて体験する1年生に上級生が教えたり、学校支援ボランティアの方々が倒れた苗を植え直したりする微笑ましい姿が見られ、助け合い、支え合う活動になった。



稲刈り体験

10月初旬に、学校田の稲刈りを行う。

J Aの方や学校支援ボランティアの方々によるご協力の下、活動に取り組んだ。

最初に、稲刈りについての説明や諸注意などを聞き、一人ひとりが鎌を持って稲を刈っていった。始めは恐る恐る刈っていたが、指導を受けるうちに次第にコツを得て上手に刈ることができるようになった。

全体の約5分の1を刈った後、コンバインで刈ることになった。子どもたちも2人ずつコンバインに乗せていただき、稲刈り体験をすることができた。子どもたちの眼差しは真剣そのものだった。

コンバインによる稲刈り体験が終わると、手刈りした稲をコンバインまで運んで脱穀し、全ての作業が終了した。

三世代交流という貴重な体験ができ、感謝の気持ちがさらに高まる活動となった。



わくわくフェスタ

10月下旬に、これまで育てた米や野菜の収穫を喜び、感謝する場である「わくわくフェスタ」を行った。

まず、1部は、子どもたちから感謝の気持ちを込めて発表した。子どもたちの思いを歌に込めて伝えることができ、大勢の観客から拍手をいただくことができた。

2部は、保護者や地域の方と一緒にもちつきをして会食し、収穫したもち米のおいしさを味わった。もち米づくりにかかわった体験を思い起こし、おいしさも倍増したようであった。

3部は、参加者全員でゲームをしたり、けん玉・お手玉・あやとりなどのコーナーを設けて昔遊びをしたりして、みんなで楽しくふれあうことができた。

子どもたちなりに、来校していただいた皆さんに感謝の気持ちを込めておもてなしができたようである。

<わくわくフェスタのプログラム>

◎ 開会式 (オープニング)

(1部) 全校発表 (合唱)

(2部) もちつき・会食

(3部) ふれあい活動

・全員でゲーム

・昔遊び

◎ 閉会式



野菜づくり

毎年、体育館裏の「わくわくランド（学校農園）」では、いろいろな野菜を育てている。

理科の教材や子どもたちの育てたいものを各学級で話し合って決め、全校ではさつまいもと玉ねぎを植えている。今年は、PTA会長からたくさんの苗の提供があり、多種類の野菜を育てることができた。

水やりや草取りは、各学級で行い、夏季休業中は3年生以上の子どもたちが当番制で行ってきた。収穫した野菜は、各自家庭に持ち帰り、地域の恵みについて家族と会話をしながらいただいている。

土づくりや畝立ては職員で行い、支柱立ては学校支援ボランティアの方々が、自主的に手伝ってくださった。現在、大根や白菜などの冬野菜の植え付けも協力してくださっている。毎年、さる、いのしし、もぐら、カラスなどに作物を食べられたり、農園を荒らされたりしているが、地域の方々の知恵や協力により、網を張ったり風車を作ったりして、被害を防ぐ工夫もできるようになった。

地域の方々から学んだことを、これからは自分たちの力で活かしていこうとする強い意思が芽生えてきている。

＜全校で栽培したもの＞

（全員）

・さつまいも ・玉ねぎ

（各学級）

・ミニトマト ・枝豆

・きゅうり ・すいか

・ピーマン ・パプリカ

・かぼちゃ ・おくら

・とうもろこし ・ししとう

・落花生 ・なす

